

2019 年度 ピアサポート活動報告

I ピアサポート制度

ピアサポート制度は、2014 年度より本学初めての試みとして開始された。本制度は、学生による学生のための支援であり、学生同士で勉強や進路などの学生生活のことについて尋ねたり相談したり出来るものである。本制度の趣旨は、学生が、学内の業務に従事し報酬を得ることで、職業意識・職業観を育むと共に、学生に対する経済的な支援を行うこともあるが、更には、将来医療人を目指す学生が、患者との信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力やホスピタリティを養うことが期待出来、その上で、公共的精神、積極性、広い視野や世界観の涵養など人間的成長を促すことを目的とする。6 年目である本年度は、2019 年 4 月より活動を開始した。

II 2019 年度活動内容

2019 年度のピアサポーターは医学科 5 年（男性）、医学科 3 年（女性）の学生が 2018 年度から引き続き担当した他、歯学科 3 年（女性）の学生が 2019 年度から新たに担当となった。

II-1 今年度の活動方針について

2018 年度までの活動では、学生からの直接の相談や投書箱による相談を主な活動としてきたものの、相談件数はあまり多くなく学生のニーズをあまり汲み取れていない可能性が示唆されていた。そこで、今年度では他大学の活動の情報収集を行いつつ、学生のニーズを汲み取れるような新しい活動の模索をテーマとして活動した。

II-2 相談業務

去年度までは 3 号館 2 階自販機前、7 号館 1 階ラウンジ前、5 号館地下 1 階売店前の 3 箇所に投書箱を設置していたが、相談件数や人員リソースの都合から今年度から 5 号館地下 1 階のものを残してその他は撤去することとなった。メールでの相談受付や対面での相談受付についてはこれまで通り行う方針とした。

学生支援室
ピアサポート体制変更のお知らせ

いつもご利用頂きありがとうございます。
この度活動体制の変更に伴い、かねてより投書箱による相談を受け付けていましたが以下のように投書箱の位置を変更いたします。

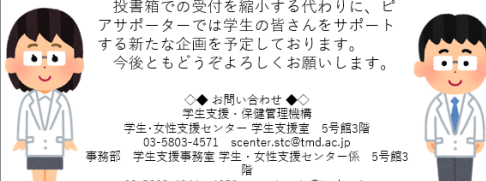
【変更前】
3 号館 2 階自販機前
7 号館 1 階ラウンジ前
5 号館地下 1 階売店前

【変更後】
5 号館地下 1 階売店前

また、メール相談はこれまで通り受け付けております。対面相談についてはこれまではサポーターが定刻に待機しておりましたが、今後は「**メールでの予約制**」とさせていただきます。
アドレス: scenter.stc@tmd.ac.jp
件名「ピアサポーターへの相談」
までお願いします。

投書箱での受付を縮小する代わりに、ピアサポーターでは学生の皆さんをサポートする新たな企画を予定しております。
今後ともどうぞよろしくお願い致します。

◆◆お問い合わせ◆◆
学生支援・保健管理機構
学生・女性支援センター 学生支援室 5号館3階
03-5803-4571 scenter.stc@tmd.ac.jp
事務局 学生支援事務局 学生・女性支援センター係 5号館3階
03-5803-4944・4959 scenter.stc@tmd.ac.jp



Ⅱ-3 ホームページの作成

ピアサポーターらの学生に対する聞き取りの結果から、これまでのピアサポーター活動については学生からの認知が十分でなかったという結論になった。そこで、東京大学ピアサポートルームの活動を参考にし、ホームページ作成を開始した。



※作成中の画面

Ⅱ-4 東大ピアサポーター訪問

本学に過去送付された 2017 年度東京大学ピアサポートルーム年間活動報告書を拝読し、本学ピアサポーター活動の参考にしたいと考え、更に詳細な活動内容について伺うために 8 月 6 日に東京大学ピアサポート室にお伺いした。そこで聴取した内容を踏まえ、活動内容について今後次のようなものを想定しながら準備を進めていく方針とした。

- ランチ会
- ワークショップ
- ストレスチェックなどのイベント
- 古本交換事業
- 「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」参加
- 相談事業の縮小
- 他大学交流
- ゼミの開催
- ホームページの作成
- SNS での広報
- 組織マネジメントと BPR

Ⅱ-5 ランチ会

11月26日、1年生学生に対し各学部学科の上級学生が学習や進路の相談を受けるセッションを設けた。上級学生としてはピアサポーター3人（医学科2名、歯学科1名）、ピアサポーターOB（保健衛生学科1名、口腔保健学科1名）が参加した。その他の上級学年の参加者（医学科）が1名、1年生学生が2名参加し、和気藹々と情報交換がなされた。事前に準備してきた質問シートによって色々な情報を交換できた。

本会についてのピアサポーターの振り返りでは、ピアサポーター制度の周知が不十分であることからHPやポスターの作成を急ぐ必要があること、並びに反復して小イベントを繰り返す必要があることが挙げられた。



※イベント周知のポスター

Ⅱ-6 「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」訪問

愛媛大学・松山大学が幹事校として企画・運営を行った2019年度「ぴあのわ」に、ピアサポーター2人が参加した。全国総勢26の大学から176名が参加した大規模研修であり、講義や交流など様々なプログラムが2日間の間に詰め込まれていた。

大学毎に参加していた学生・教員の人数にはばらつきがあり、最大で26名（愛媛大学）、最小で2名（本学、国際基督教大学、日本福祉大学など）であった。

基調講演、記念講演や、ピアサポーター向けの講座、愛媛大学/松山大学の学生が主催したツアー、ポスターセッションによる情報共有、夜学塾といって学生と教員同士の意見交換の場などがあった。各セッションで他大学同士の学生で交流が行われ、お互いの大学の活動について意見交換が行われた。

東大ピアサポートルーム見学時にお話しした院生の方と再会し懇意にいただいた。

来年のぴあのわは名古屋大学と岐阜大学の共催であり、日時は未定であった。

概要

主催 愛媛大学 教育・学生支援機構 学生支援センター

共催 松山大学 学生部 学生支援室

運営 愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（通称「SCV」）、
松山大学学士支援団体 PIER（ピア）

期日

令和1年12月7日～8日

会場

愛媛大学、松山大学

プログラム（本学ピアサポーター参加のものを抜粋）

- 記念講演 いよココロザシ大学 学長・理事長 泉谷 昇先生 テーマ「ハテナに学ぶ」ピアサポート力育成講座 プロジェクトマネジメント
- ピアサポート力育成講座 ファシリテーション
- ピアサポート力育成講座 危機管理・共感力
- ピアサポート力育成講座 大学生の健康
- 災害ボランティア
- 基調講演 テーマ「想像力を生む『遊び』」
- ポスターセッション

ポスターセッションでは、本学のサポーター2人で「東京医科歯科大学の学部紹介と東京医科歯科大学のピアサポーター紹介」というテーマで発表をした。主に本学の特殊な学部構成とカリキュラム、それに適応したピアサポーターの活動をこれからどうしていく予定かについて話した。

東京医科歯科大学ならびに東京医科歯科大学 ピアサポート活動についての紹介

本学の学部学科概要

本学学部学生と学生数（平成31年5月時点）

学部	学科	学生数	臨床研修学生数
医学部	医学科	663	190
	保健衛生学科	225	221
	看護学専攻	143	118
歯学部	歯学科	320	148
	口腔保健学科	92	91
	口腔保健工学専攻	54	43

東京医科歯科大学の沿革（学部教育に関係するものを抜粋）

1928年10月12日	東京高等歯科医学校を設立
1930年12月	東京高等歯科医学校（東京女子高等師範学校跡地）に移転
1944年4月	東京医学専門学校となり医学科を設立
1946年8月	東京医科歯科大学（旧制）設立
1949年6月	医学部、歯学部附属病院が医学部、歯学部附属病院とそれぞれ改称
1951年4月	国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設置 医学部歯科学科、歯学部歯科学科を設置 歯科材料研究所を附置
1952年4月	歯学部附属歯科理工学校を設立
1955年4月	大学院（歯学研究科、歯学研究科）を設置 医学及び歯学部歯科学科を千葉大学文理学部内に設置（53.3.31廃止）
1958年4月	医学及び歯学部歯科学科（国府台分校）を設置
1962年4月	歯学部附属歯科理工学校を改称（54.8.31廃止）
1965年4月	歯学部を改称
2004年4月	国立大学法人 東京医科歯科大学設置 歯学部口腔保健学科を設置 歯学部口腔保健学科（2 専攻）を設置 （口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻）
2011年4月	研究・歯学部歯科学科を改称 研究・歯学部歯科学科を改称

各学科のカリキュラム（医学科/歯学科のみ抜粋）

医学科

学年	カリキュラム
1	概論 千葉県市川市にある国府台キャンパスにて概論科目を履修する。第二外国語、社会学、心理学など。
2	基礎医学 2年生以降は国府台/水にある附属病院を併設した湯島キャンパスに通う。2年生では、解剖学、生理学、免疫学といった基礎医学を学ぶ。3年生となる学生が最も多い学年であり、精神科にも負担が大きいとされる。
3	臨床医学 消化器、循環器、泌尿器など、臨床医学を各科目ごとに学習していく。講義が中心であり、比較的自由に過ごせる時間が多い。
4	臨床医学 プロジェクトとセメスター 約6ヶ月間の同じ科目の希望する研究機関/研究室に所属し研究活動を行う。
5	臨床実習 各臨床科をローテーションし、指導医の指示監督のもと臨床実習に携わる。
6	臨床実習 卒業試験 国家試験 卒業論文の提出が求められる代わりに卒業試験が課される。その後は医師免許取得のために国家試験を受ける。

歯学科

学年	カリキュラム
1	概論 千葉県市川市にある国府台キャンパスにて概論科目を履修する。第二外国語、社会学、心理学など。
2	基礎医学 2年生以降は国府台/水にある附属病院を併設した湯島キャンパスに通う。2年生では医学科と同様に、基礎医学を学ぶ。6年間で最も忙しい、負担が大きい。
3	基礎・臨床歯学 歯や口腔に関する科目を履修するほか、歯学部附属歯科理工学校などの臨床的な科目もある。試験が苛酷であるため、退学することはできないが、2年生よりは余裕がある。

学年	カリキュラム
4	基礎・臨床歯学、研究実習 3年生の履修で歯学を学ぶほか、医学科のプロジェクトセメスターと同様のものを3か月行う。
5	基礎・臨床歯学 CBTの試験を経て、歯科医師の「仮免許」を取得する。臨床科で実際の診療を見たりアシストしたりする。
6	臨床実習、国家試験 各生体ごとに実習を出し、1日に2人の診療を行う。最終的には歯科医師免許取得のために国家試験を受ける。

これまでのピアサポーターの活動

時期	内容
2013.4	発足（国府台キャンパス）
2015.9	夜間部を開設
2015.10	夜間部に活動があった項目に賛し大学側に推薦し、部分的に24時間体制に。
2015.9-2015.12	学生生活実習調査の質問票を提出した。
2016.4-2019.4	湯島キャンパスのバリアフリーマップ作成 大学Webサイトに掲載し好評を得た。 http://www.tmd.ac.jp/arts-cms/cma-files/20190717-114518-9016.pdf
2019.5	東京ピアサポータールームの発足
2019.11	1年生対象ランチ会を開催



本学学生の需要に応じた今後の活動

東京医科歯科大学に特有の雰囲気

- ・医療系単科大学であり異分野の学生との交流機会が限られている。
- ・同一学科内の閉鎖的な同一コミュニティの中での生活になる。
- ・一般的な総合大学と比べ、同一学科内の人付き合いが重視されている。
例：試験対策を学科内で役割分担して行う、同学科 同士の学生と寝て実習を行うなど
- ・医療関係者になるうえでコミュニケーション能力を高めたいて思っている学生が多い

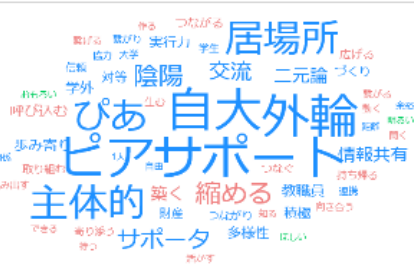
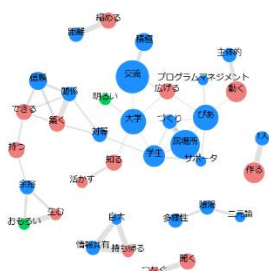
これを踏まえた今後のピアサポーターの活動

- ・異分野の学生（他大学等）との交流会の開催
- ・学科をまたいだ交流会の開催
- ・コミュニケーションに関するワークショップの開催

参考資料

31年（17期） | 基本理念・沿革等 | 大学案内 | 国立大学法人 東京医科歯科大学
http://www.tmd.ac.jp/kouhou/statics/1130/students_1130/index.html
 平成30年度 学生数 | 平成30年度データ | 統計データ | 東京医科歯科大学をもっと知る | 国立大学法人 東京医科歯科大学
<http://www.tmd.ac.jp/arts-cms/cma-files/20190717-114518-9016.pdf>
 2020年度大学案内

※ピアサポーターによる本学並びに本学ピアサポート活動の紹介ポスター



※企画の1つである「ワールドカフェ」での各大学参加学生の振り返りからテキストマイニングしたもの

「ぴあのわ」での研修振り返り

投書箱や対面での相談受付は、東京医科歯科大学ピアサポーターよりも活発に行っている大学が多かった。大学自体やピアサポーターの規模の違いによる部分もあるが、相談の受付方法にも違いがみられたため本学ピアサポーターでも取り入れたい。例えば、投書箱のそばに置かれ、手書きで投書箱の趣旨がわかりやすく書かれており目を引く看板、印象的なキャッチフレーズとどのような相談が来ているのかがわかりやすく書かれているポスターなどである。

東工大では数学などの授業は専門性が高く難しいため、「ここがわからない」といった相談が多く、対面での相談受付が勉強会のようになることが多いという。本学でも難しい試験が多く再試にかかったり留年したりする学生が一定数おり、勉強の相談の需要はあると考えられる。ピアサポーターがそういった相談も受け付けているということを強く宣伝し、またピアサポーターでもそういった相談を受けられる体制を整えることで、より学生のニーズを捉えた活動を展開していくこととした。

宣伝についてはどこの大学でも頭を悩ませているところであり、ツイッター、ホームページで宣伝をしているというところが多かった。宣伝のタイミングについて、新入生が入ってきたときに部活の勧誘に混じって行うという大学があった。その時期に新入生対象の大学の過ごし方をレクチャーするイベントを開くことにより、効率的にピアサポーターの活動を多くの学生に知らしめることができるという話であった。本学ピアサポーターでも、相談受付以外の企画を実施してきたが、こういった他大学の取り組みを参考にしてさらに活動の幅を広げていく。

Ⅱ-7 IT 環境整備による BPR の実施

Windows7 のサポート期間終了、並びにピアサポーター学生の増員に伴いピアサポーターの IT 環境を見直す必要が生じた。そこで、今年度では業務プロセスの改新も含めた IT 環境の大幅な更改を行った。

・本学学内 IP アドレスの取得とルーターの設置

これまでピアサポーター活動中はインターネット環境がなく、情報収集や書類の作成等で困難が生じていた。そこで、wifi ルーターを設置し本学学内 IP アドレスを取得し、ネットワーク環境を整備した。これにより、インターネットでの情報収集や HP の作成、資料作成の際の素材集めなどの作業が可能になった。

・学生支援室旧 PC のアップグレード/新 PC 購入

これまではサポーター2人で学生支援室の別チーム所有の PC を1台お借りしていたが、サポーターが増えるということで新たに PC を1台購入し利用を開始した。その際スペック上アップグレードの必要があった1台についてはメモリ増設並びに HDD の SSD への換装を行うことで用務に十分に利用可能になった。

・本学契約の Office 365/Share Point の活用

これまでは USB メモリを用いたデータのやり取りが行われていたが、USB 自体の紛失や故障によるデータの消失が懸念されたり、サポーター/職員間でのやり取りが煩雑になるという問題があった。そこで、本学にて包括契約がなされ、各学生/職員にアカウントが割り振られている Office365 や Share Point の利用を開始した。これらのファイルをセキュアにかつスムーズにやり取りできるようになり、業務効率が大幅に改善した。また、Office365 の最新の Word/Excel/Power Point が利用できるようになったことで、より効率的に資料作成が可能になった。

Ⅲ 2019 年度の活動を振り返って

今年度のピアサポーターは4年目の5年生と2年目の3年生で4月からスタートし、その後新たに今年度が初めての3年生が加わり3人体制でスタートした。各自学校の実習や授業の関係で十分な活動時間を確保することは困難だったかもしれないが、ピアサポート制度並びに学生の支援に関して様々な検討を重ねることを通してサポーター自身多くの学びを実感することができた。ピアサポート活動自体の見直しということが今年度の活動テーマであったが、各サポーターとも熱心に情報収集や企画立案などに取組めたと思われる。東大訪問やぴあのわ参加など今年度初となるイベント尽くしであり、得たものは非常に大きかった。これらの得られた情報や知見から来年度更に活発なピアサポート活動が行われるようにしたい。